

六郷の総鎮守



六郷神社崇敬会会報

8

平成5年5月発行

穴をあけて綴じてください



江戸時代の末期につくられた二之神輿は、大田区で一番古く「百貫神輿」といわれています。(撮影・中谷 亀氏)

お祭りは6月12日(土)・13日(日)

六郷神社の夏祭りは、にぎやかなことで有名です。ことしも二之神輿を氏子青年会が担ぎ、南三、南二、南一、東一、東二、東三、宮本の順で渡御します。宮出しは13日午前8時40分、宮入りは午後4時30分の予定です。

獅子舞を大田区教育委員会が撮影

こども獅子舞は、六郷の誇りとする無形民俗文化財です。昨年に引き続き大田区教育委員会が記録映画を撮るため、神幸祭に準じた行列を組み、12日午後2時に社務所を出発、「道行」^{みちゆき}をして、宮本町会の神酒所で舞います。神社では12日の午後5時30分からと、13日の午後1時、3時、5時30分からの計4回、神楽殿で少年少女が熱演します。

会員記帳所にお立ち寄りください

崇敬会ではお祭りの両日、拝殿脇に会員記帳所を設けます。ご参拝の節お立ち寄りください。平成5年度の会費払い込み、入会申し込みの受け付けもいたします。

六郷神社崇敬会

平成4年度決算報告書

収支計算書（平成4年4月1日から

平成5年3月31日まで）

収入の部				円
前期繰越金	761,854			
個人社会費	1,770,000			
法人社会費	660,000			
寄付金	149,000			
雑収入	135,997			
合 計	3,476,851			

支出の部				円
六郷神社協賛金	593,550			
郷社協賛金	350,000			
準備品費	170,608			
会報発行費(第6.7号)	540,750			
事務費	147,570			
通信費	238,159			
会議費	214,553			
郵便振替払込料	20,840			
消耗品費	61,478			
渉外費	229,000			
催事費	207,250			
雑費	19,099			
次期繰越金	683,994			
合 計	3,476,851			

資金残高内訳（平成5年3月31日現在）

郵便振替貯金	3,725
城南信用金庫定期預金	800,000
同 普通預金	140,243
現金	90,026
合 計	1,033,994

（協賛準備金＋次期繰越金）

監査報告書

監査の結果、上記平成4年度決算報告書は、正確であることを認めました。

平成5年4月29日

監事 代田 秀雄 ㊞
監事 桑原 静 ㊞

7月11日 第4回 定期総会にご出席を

第4回定期総会を左記のとおり開催いたしますので、ぜひご出席ください。また、ご案内申し上げます。なお、総会終了後、懇親会を行います。

記

- 一、日時 平成5年7月11日（日）午前10時30分
- 二、場所 大田区東六郷3-10-18 六郷神社社務所
- 三、会議の目的

(1) 報告事項

平成4年度会務及び事業報告の件

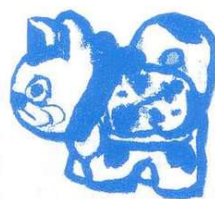
(2) 審議事項

1. 平成4年度（平成4年4月1日から平成5年3月31日まで）

決算報告書承認の件

2. 平成5年度（平成5年4月1日から平成6年3月31日まで）

事業計画（案）及び収支予算（案）承認の件



平成4年度の会務及び事業報告

平成5年3月31日現在、本会の会員数は個人713名、法人77社、ほぼ前年度並みでさらなる会員増強が望まれます。

本年度は常任理事会を8回、理事会および役員懇親会を各1回開催し、かねてからの念願であった九州の宇佐神宮参拝の旅をはじめ、計画の事業は解説板設置をのぞいてことごとく実施しました。

平成4年4月1日 第25回つたち早朝まいり。講話「大和魂」（森 繁春）

5月1日 第26回つたち早朝まいり。講話「すばらしい日本」（梅沢喜代造）

5月30日 六郷神社由緒揭示板除幕式。会報第6号発行。

6月1日 第27回つたち早朝まいり。講話「墨絵のたのしさ」（高橋武三）

6月6-7日 祭礼。会員参拝記帳所を開設。社務所に献花。

7月1日 第28回つたち早朝まいり。講話「衣服のうつりかわり」（喜多絹子）

7月5日 第3回定期総会を午前10時30分から社務所で開催。第2期役員選出。

8月1日 第29回つたち早朝まいり。講話「獅子舞の世話人として」（足利幸吉）

8月7～9日 氏子青年会主催の納涼盆踊り大会に献灯。

9月1日 第30回ついたち早朝まいり。講話「防災の日に寄せて」(森田賢治)

9月10～12日 宇佐神宮・太宰府天満宮・宗像大社の参拝と、臼杵の石仏・吉野ヶ里遺跡見学の旅。24名参加。

9月27日 六郷河原野草観察会(指導||簡典久・古屋のり子の両氏) 40名参加。

10月1日 第31回ついたち早朝まいり。講話「自己紹介」(徳永真一)

11月1日 第32回ついたち早朝まいり。講話「お化粧について」(石井君子)

11月3日 創立3周年記念に、忠魂碑前にしだれ桜を献木。引き続き、大日本茶道協会のみなさんの奉仕により献木式添釜(野点)。詩吟(前島唯七・井上富子)

12月1日 第33回ついたち早朝まいり。講話「少年補導員のつとめ」(前田昭子)

12月25日 役員懇親会開催。26名参加。

12月26日 会報第7号発行。

平成5年1月1日 歳旦祭に清酒2斗樽を奉納、氏子青年会の手で初詣客に振る舞われる。社務所に献花。

1月3日 会員初詣昇殿参拝。神酒と特別神札が授与され、崇敬会からは御供物と甘酒を進上。230名参加。

2月1日 第34回ついたち早朝まいり。講話「中小企業の悩み」(持田博美)

3月1日 第35回ついたち早朝まいり。講話「秋田県仙北郡六郷町との交流」(湯浅久美子)

3月20日 「六郷ばやし」復活のための練習開始(指導||清水清一・石渡金次郎・早川和広・前野義雄・杉山錦五の諸氏)参加希望者21名。

平成5年度事業計画(案)

(1) 六郷神社ついたち早朝まいり(定例)

昇殿参拝後、会員が交代で10分以内の短い講話を行っています(元日を除く)。「人ハ神ノ徳ニヨッテ運ヲ添エ、神ハ人ノ敬ニヨッテ威ヲ増ス」

7月より10月まで 午前6時集合
11月より6月まで 午前7時集合

(2) 創立4周年記念の献木式と添釜

11月3日献木式に続き、大日本茶道協会のみなさんの奉仕で添釜(野点形式の茶会)を境内で行います。

(3) 大田区のウォーター・フロントを巡って江戸東京博物館を見学

バスを利用しての見学会です。東京湾を展望できる場所での楽しい昼食も計画し、期日は追ってご案内します。

(4) 六郷土手の野鳥観察会

身近な自然を見直しましょう。六郷水門付近で10月下旬に開く予定。指導は大田自

然を守る会代表の簡典久氏です。

(5) 六郷ばやし復活の助成

伝統ある六郷ばやしをぜひ復活しようという気運が盛り上がりました。すでに練習を始めますが、この活動継続のための助成を進めます。

(6) 平成6年1月3日六郷神社初詣

恒例となった会員とその家族の昇殿参拝を、左記のとおり2回に分けて行います。

第1回 午前10時

第2回 午前11時

神社から神酒と特別神札が授与され、崇敬会では御供物と甘酒を進上します。

(7) 境内記念碑などの解説板の設置

(8) 崇敬会会報第8・9号発行

みなさんのご協力により、とりあえず会員1000名突破を目標に増強運動を行います。

(森田賢治)

六郷神社崇敬会
平成5年度収支予算(案)

(平成5年4月1日から平成6年3月31日まで)

収入の部				円
個人	会費	1,800,000		
法人	会費	600,000		
雑収入	会費	150,000		
前期繰越金	会費	683,994		
合	計	3,233,994		
支出の部				円
六郷神社協賛金	1,000,000			
備品費	50,000			
会報発行費(第8・9号)	600,000			
事務信託費	200,000			
通会費	250,000			
郵便振替料	220,000			
消耗品	25,000			
渉外費	80,000			
催事費	250,000			
雑費	400,000			
予備費	30,000			
合	計	3,233,994		

心のふるさと

夏祭りによせて

森 繁春



○六郷に生まれ育って夏祭り
この拙句のとおり、私は大正
12年の元旦に六郷川のはとりの
農家の長男として生まれ、現在
も西六郷に住んでいます。

八幡様のお祭りは昔から6月
です。この間、古い写真を整理
していたら、セピア色に変色し
た1枚が出てきました。私が5

歳のとき、20歳の叔父につれら
れて、川崎の写真館で撮ったも
のです。花笠を頭にのせ、鼻筋
にぐいと白粉をぬられ、小さな
金棒を右手にして立っています。
日頃の腕白坊主もちよっとおす
ましの態で、左脇に、なかなか
ハンサムで今なお健在な叔父が、
お揃いの浴衣を着て椅子に腰掛
けています……。

懐かしさのあまり手にとって
眺めていると、六郷がまだ農村
だったころの四季折々の風景、
とりわけ夏祭りの記憶が走馬灯
のように浮かんできました。

金色燦然たる百貫神輿の勇ま
しい渡御。「ワッショイ、ワッ
ショイ」「サセ、サセ」「モメ、
モメ」の掛け声。八幡様の森か
ら聞こえてくる心を湧きたたせ
るような祭りばやしの調べ。参
道せましと並んだ露店の数々。
金魚すくいに風鈴屋、お面やホ
オズキ売り、射的屋、しんこ細
工とカルメ焼き。夜ともなれば、

アセチレンガスの灯りに、ひと
きわ食欲をそそるお好み焼きと
おでんの匂い。社殿の裏手には、
見世物小屋やサーカスのテント
が並び、ジントラの曲はきまって
「美しき天然」。ガマの油売りの
「さあ、さあ、お立ち合い」の
口上も忘れられませんか。

家々の軒先には「御祭礼」の
提灯がつるされ、わが家の座敷
では、麦秋の束の間の祭りを楽
しむ大人たちが寄り集まり、初
物の枝豆をつまみにビールを傾
け、あるいは鯛の塩焼きで酒を
汲みかわし、談笑とさんざめき
がいつまでも続いている……。

汗ばむ肌に六郷川の川風がこ
こちよい夏祭り——私はこのよ
うな郷愁に心の安らぎを感じて
いますが、縁あって六郷に移り
住むようになった人の中にも、
八幡様の夏祭りに魅せられ、そ
れをきっかけに六郷を第二のふ
るさとにする人もたくさんいる
のではないのでしょうか。私の俳
句の師である斎藤朗々子先生に、
次のような句があります。
○夏祭り郷関出でて五十年



◆東海道跡を示す石標

脇参道入口前の歩道が、東海道
の跡であることを示す石標が、三
月に、大田区教育委員会によって
掲示板前に建てられました。

◆茅の輪をくぐって健康に

6月30日の夏越の大祓には、社
殿正面に設けられた茅の輪をくぐ
って、健康を祈りましょう。

◆平成5年度の会費の納入を

お手数でも同封の振替用紙で、
平成5年度の会費（平成5年4月
1日から同6年3月31日までの分）
納入を、お願い申し上げます。

◆新入会員紹介

東一・小原和之 仲一・山本竹
男、前野義雄

発行 六郷神社崇敬会

〒144 大田区東六郷三十一十八

六郷神社社務所内

電話 〇三・三七三一・二八八九

振替 東京九一・一一三五五三

編集 平野順治